【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第６区分
【発行日】平成26年2月13日(2014.2.13)

【公表番号】特表2013-516362(P2013-516362A)
【公表日】平成25年5月13日(2013.5.13)
【年通号数】公開・登録公報2013-023
【出願番号】特願2012-546419(P2012-546419)
【国際特許分類】
Ｂ６５Ｄ　41/16　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ６５Ｄ　41/16　　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成25年12月20日(2013.12.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
開け易い容器などの容器における開口部を閉じるためのフォイルであって、容器に接着されるフォイルを含み、前記フォイルは、容器からフォイルを外すためのタブを含み、タブは、フォイル上に折重ねられ、コネクタを介してフォイルに接続され、タブは、タブを作動させると、視認可能で修復不可能な破損部分が形成されてフォイルに接着されるように破損手段を備える、フォイル。
【請求項２】
破損手段はタブに組込まれる、請求項１に記載のフォイル。
【請求項３】
破損手段は、タブにおいて、少なくとも１つの脆くなったタブ部分または少なくとも１つの開口部の形状を有する、請求項２に記載のフォイル。
【請求項４】
脆くなったタブ部分または開口部は、少なくともタブ自由端とコネクタとの間の領域に位置する、請求項３に記載のフォイル。
【請求項５】
脆くなったタブ部分または開口部は、コネクタの少なくとも一方側に位置する、請求項４に記載のフォイル。
【請求項６】
脆くなったタブ部分または開口部は、少なくともタブ自由端とコネクタとの間の領域に位置し、脆くなったタブ部分または開口部は、コネクタの両側に位置する、請求項３から５のいずれかに記載のフォイル。
【請求項７】
破損はコネクタを越えて集中する、請求項１から６のいずれかに記載のフォイル。
【請求項８】
フォイルは、鋼、錫板およびアルミニウムなどの金属でできており、任意には、少なくとも一方側にポリマーコーティングが施されるか、またはポリマー材料でできている、請求項１から７のいずれかに記載のフォイル。
【請求項９】
請求項１から８のいずれかに記載のフォイルを作製するための方法であって、

ｉ．フォイルまたはフォイル細片を設けるステップと、
ｉｉ．破損手段およびタブをフォイルまたはフォイル細片に形成するステップと、
ｉｉ．フォイルまたはフォイル細片上にタブを折重ねるステップと、
ｉｖ．コネクタを介してタブをフォイルに接続するためのコネクタを、フォイルおよび折重ねられたタブに形成するステップと、
ｖ．あるステップにおいて、任意に、細片からフォイルを形成するステップとを含む、方法。
【請求項１０】
破損手段が、タブの形成前にフォイルに形成される、請求項８に記載の方法。
【請求項１１】
請求項１から７のいずれかに記載のフォイルを作製するための方法であって、
ｉ．フォイルまたはフォイル細片を設けるステップと、
ｉｉ．フォイルまたはフォイル細片上にタブを折重ねるステップと、
ｉｉｉ．折重ねられたタブにおいて、破損手段と、コネクタを介してタブをフォイルに接続するためのコネクタとを形成するステップと、
ｉｖ．いずれかのステップにおいて、任意に、フォイル細片からフォイルを形成するステップとを含む、方法。
【請求項１２】
破損手段は、レーザ手段または機械的手段などによって、折重ねられたタブに形成される、請求項１０に記載の方法。
【請求項１３】
破損手段は、タブ上にありかつ少なくとも１つのタブ側面にある接着テープをフォイルに貼付けることによって形成される、請求項１１または１２に記載の方法。
【請求項１４】
請求項１から８のいずれかのフォイルによって閉じられる開口部を有し、または、請求項９から１３のいずれかの方法によって作製される、容器リングまたは容器。
【請求項１５】
請求項９から１３のいずれかのプロセスを用いて請求項１から８のいずれかのフォイルを作製するために設計される装置。